

# 和光市教育委員会

## 1 研究主題

確かな学びと育ちをつなぐ幼・保・小連携の推進

～滑らかな接続を図り、互いが生かされる交流活動を目指して～

## 2 ねらい

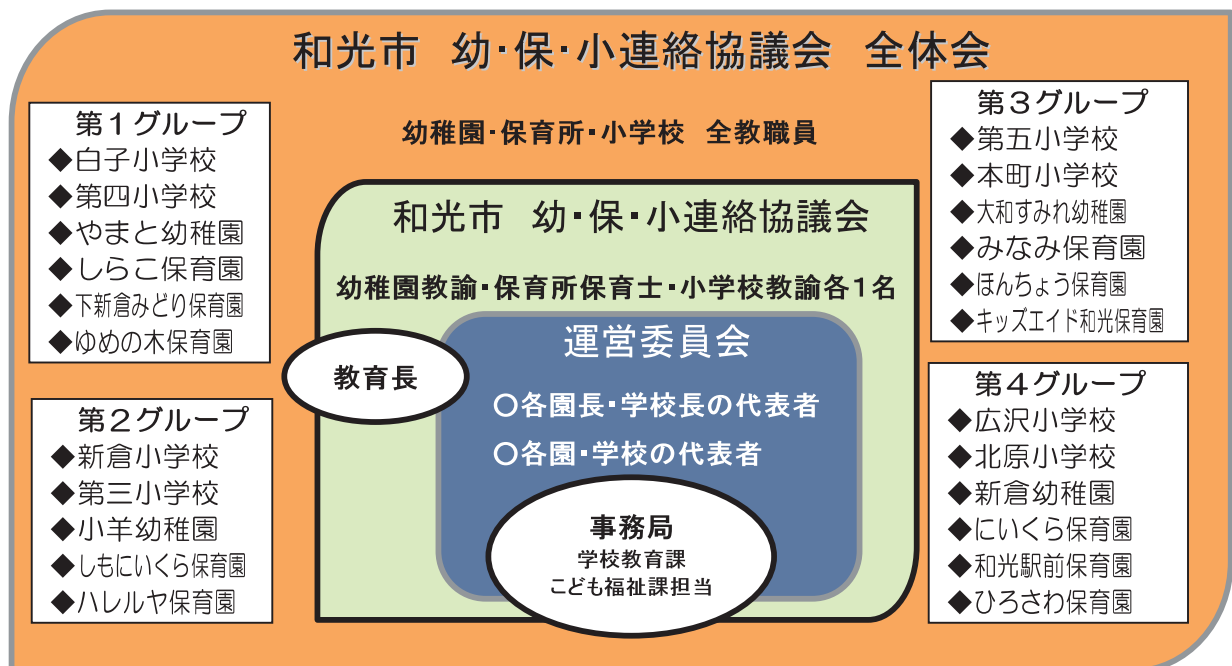
子どもたちの心身ともに健やかな成長を目指し、幼稚園、保育所、小学校が互いに連携し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図る。

## 3 本市における各学校等の設置状況（平成22年4月1日現在）

	幼稚園			保育所			小学校
	市町村立	私立	合計	市町村立	私立	合計	市町村立
施設数	0	4	4	6	5	11	8
幼児・児童数	0	815	815	686	352	1038	4298
教職員数	0	71	71	251	115	366	202

## 4 幼・保・小連携のための組織

和光市 幼・保・小連絡協議会組織図



## 5 事業の年間計画

月 日	事業内容	場 所	対 象
4月27日 (火)	第1回幼・保・小連絡協議会 運営委員会 ・活動方針・事業計画について ・市内の連携体制のあり方	和光市役所	・運営委員
5月27日 (木)	第1回幼・保・小連絡協議会 ・活動方針、事業計画 ・事例報告及び協議・具体的取組の検討	第三小学校	・運営委員 ・担当教諭 ・担当保育士
8月 7日 (土)	第1回幼・保・小連絡協議会 全体会 ・講演会 ・情報交換	和光市役所	・全教職員
9月 8日 (水)	幼・保・小連絡協議会 公開保育 ・幼稚園・保育園の交流活動	やまと幼稚園	・全教職員
9月 8日 (水)	第2回幼・保・小連絡協議会 運営委員会 ・連絡協議会の課題及び方策 ・先進事例について	和光市役所	・運営委員
10月29日 (金)	第2回幼・保・小連絡協議会 ・事例報告及び協議 ・子どもの発達や学びについて ・教育課程・指導方法・要録について	和光市役所	・運営委員 ・担当教諭 ・担当保育士
1月20日 (木)	第2回幼・保・小連絡協議会 全体会 ・事例発表 ・情報交換	和光市役所	・全教職員
2月 8日 (火)	幼・保・小連絡協議会 公開授業 ・幼稚園・小学校の交流活動	北原小学校	・全教職員
2月15日 (火)	第3回幼・保・小連絡協議会 ・事例報告及び協議 ・成果と課題について	和光市役所	・運営委員 ・担当教諭 ・担当保育士
3月 9日 (水)	第3回幼・保・小連絡協議会 運営委員会 ・連絡協議会の課題及び解決策検討 ・成果と課題について	和光市役所	・運営委員

・各ブロック研究会・交流会・打合せは随時行い、研究を推進した。

## 6 研究の具体的な取組

### (1) 和光市幼・保・小連絡協議会(幼児教育振興協議会)

#### ア 運営委員会

協議会の円滑な推進を図るため、運営委員会を置く。運営委員は各団体代表者によって構成し、事業の骨子の企画立案を行うとともに、関係事項の協議検討

等を行う。(幼稚園長会代表1名・保育所長代表2名・小学校長会代表1名・小学校教頭会代表1名)

イ 協議会

各園、各学校等から推薦された幼児教育及び児童教育に関して識見を有する者を委員として組織する。・活動方針、事業計画・事例報告及び協議・具体的取組の検討等について協議検討を行う。(運営委員・幼稚園教諭 各園1名・保育所保育士 各園1名・小学校教諭 各校1名)

ウ 全体会

全体会は、定期全体会及び臨時全体会とし、定期全体会は毎年1回開催し、臨時全体会は、会長が必要と認めたときに開催する。会議は、会長が招集し、会長が議長となる。講演・事例報告・グループ研修・情報交換等を行う。(全職員)



第1回全体会

講演会

講師 十文字学園女子大学  
教授 平田 智久 先生

講演題 「幼・保・小連携の意義とは」



第2回全体会

事例発表・情報交換・今年度のまとめと来年度の活動計画

(2) 授業参観・保育参観と研究協議

ア 公開保育参観 幼・保連携(やまと幼稚園年長・下新倉みどり保育園年長・ゆめの木保育園年長)

同年齢で幼稚園・保育園による交流活動

異年齢の集団で中心となって生活することが多い年長児が、同年齢での交流活動を行った。同じ小学校へ進学する子が多いこともあり、顔見知りが増え、特に少人数の保育園に有効であった。公開保育参観までに、3回交流活動を行っており、当日は、なれた様子で行事を行っていた。クラスごとに歌を歌い、ダンス・工作等を行った。最後には全体で集まり、作品をもちよってクローバーの形にし、友情を深め、友だちが増え、集団で遊ぶ楽しさを知ることができる活動となった。



イ 授業参観 幼・小連携(北原小学校1年・やまと幼稚園年長)異年齢で幼稚園・小学校による交流活動

小学校生活科「あそびランドへようこそ」の単元で、1年生は「遊びの名人」のボランティアや保護者・祖父母からむかし遊びを学び、自分でおもちゃを作って遊ぶ。



そして、幼稚園への招待状を作り、1年生が年長児に自分が教わったことや楽しかったことを教えてあげながら、一緒に遊ぶ活動である。年長児は、はじめはてこずっていたが遊びにもなれ、1年生とともに元気に遊ぶようになった。次年度同じ学校に入学する園児だけではないが、小学校での体験によって、小学校の話や「小学校ごっこ」をする園児も増え、入学に対して楽しみに思う子が多くなってきた。



紙コップで作ったけん玉遊び

#### ウ 授業参観 保・小連携

(北原小学校5年・にいくら保育園年長・ハレルヤ保育園年長)

##### 異年齢で保育所・小学校による交流活動

総合的な学習の時間「小学校ってどんなことをするの？」学校での1日や主な行事について、園児が入学した時に最高学年となる5年生が劇などによって紹介した。勉強の仕方や、児童の得意分野を発表し、サッカーやドッジボール、鍵盤ハーモニカを演奏したり、給食のことなど紹介した。また、行事では入学式や遠足などを紹介し、園児たちは楽しみにしていたようである。この交流を通して、5年生は最高学年へ向けての自覚を持つことができた。また、園児は小学校へ通う意欲と楽しみを持つことができた。



通学班で登校

#### エ その他のグループの取組

- ・ 園児が1年生の授業を参観
- ・ 1年生の授業を幼稚園教諭・保育所保育士が参観し、その後協議を持ち、情報交換や入学に際しての引継ぎを行う。



ドッジボールおもしろいよ

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 小学校入学に対して不安を持っていた園児たちが、入学を待ち遠しく感じるようになり、小学校に憧れの気持ちを持つようになった。
- ・ 幼・保交流により、年長児が同じ5歳の友だちを増やすことができ、近所でも親しく遊んだり、お互いの園のことを保護者とも話したりするようになり、親同士の交流にもつながった。
- ・ 幼・保・小の職員が、それぞれがお互いに理解しあうようになり、取組が深まってきた。

### (2) 課題

- ・ 年間計画や教育課程への接続と連携をさらに深め、幼児教育と学校教育との見通しを持った取組にしていく必要がある。
- ・ 園・学校間の連携から、保護者・地域を含めた連携へ広げていくために、講演会や行事への参加を検討する。